

はじめに

✧ 古文文法問題は満点を目指せるものである。何が重要であるのかを理解し、少々の勉強を積みめば、充分満点が取れる。また、満点を取らねばならない。なぜなら、もっと高度な長文解釈や心情・原因などを問う内容探求の問題で失点をするかもしれないのだから…。

✧ きつと諸君には『古文文法』に対してニガテ意識、いやもつとはつきり言えば、嫌悪感があるものと思われる。文法が重要なものだとはわかってはいても、配点が少ないのが通常であるし、どうかすると出題されない場合もある。そんなものをきちんと学習するなんて、ばかばかしい気がするものね。

✧ 文法とは「文」の「法律」である。それを、まったく知らないのではうまくやっていけないのだ。ヘタをすれば、犯罪（「正確に古文が解釈できないこと」となり、罰（「減点」）を受けかねない。しかし、諸君は法律の専門家ではないのだから、法律（「文法」）のすべてを

知る必要もないのだ。

※ 『古文文法』において何が重要であるのか、最近の実際の大学入試問題を徹底的にわれわれは検討した。頻度順データを取ってみたり、より典型的な問題を探したり、入試問題よりも良い問題を作成したり、研究に研究を重ねた。

※ 出来上がったのが本書である。チームワークの勝利だと自負していることを、率直に書き留めておく。『古文文法』を遊ぶ気持ちで、しかも、文法問題で満点を目指し、一方その文法力で正確な解釈ができるようになり、必ず古文に強くなるように、と考えて作った本書である。

※ 三十項目の表題は、気付いてもらえらると思うが、言語遊戯をしているつもりだ。諸君にとってはオジギヤグ・駄洒落でしかないかも知れないが（駄洒落にもなっていない？）、口ずさんでみてほしい。もっとも面白いのを作ってみるのも、『古文文法』を楽しむことになるはずだ。ぜひとも勧めておこう。

1 する・らる

「る・らる」見たら
 自・可・受・尊
じかじゆそん

る	る	未	用	止	体	已	命	接	続
らる	られ	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	未然形	四・ナ・ラ
								未然形	四・ナ・ラ以外

四つの意味をしつかりと見分けること！

〈ドリルA〉 次の傍線部の文法的意味として正しいものを、それ

ぞれ後の選択肢の中から選べ。

- 1 博奕ばげをして親はらからにもにくまれけり。
 - 2 大納言なりける人、物語りなどせられけり。
 - 3 笛竹のひと夜も君と寝ぬときは千種ちくさの声に音こそ泣かるれ
 - 4 恋こひしからむことの堪たへがたく、湯水飲まれず。
- イ 自発 ロ 可能 ハ 受身 ニ 尊敬

〈ドリルB〉 次の傍線部の文法的意味として正しいものを、それ
 ぞれ後の選択肢の中から選べ。

- 1 妻せめければ、せめられわびて、さしてむと思ひなりぬ。
- 2 道知れる人もなくて、まどひ行きけり。
- 3 消息言ひ入るれどなにかひなし。

〈ポイント〉

「る・らる」の意味

- ① 自発 (自然トイレル・ラレル)
- ② 可能 (イデキル)
- ③ 受身 (イレル・ラレル)
- ④ 尊敬 (イナサル)

「る・らる」の意味の見分けかた

- (1) 心情・知覚を表す動詞「思ふ・嘆く・知る・見るナド」に「る・らる」↓ **自発**
- (2) 否定文中の「る・らる」↓ **可能**
 ○ 故郷ふるさとのみぞしのぼる。(自然トナツカシマレル)
 ○ つゆまどろまれず。(スコシモ眠ルコトガデキナイ)
 * 鎌倉時代以降は肯定文中でも**可能**に用いる。
 ○ 冬はいかなるところにも住まる。(住ムコトガデキル)
- (3) 「に」に「る・らる」↓ **受身**
 ○ 姑いへひめに思はるる嫁の君。

解説と解答

4 涙のこぼるるに、目も見えず、ものも言はれず。

5 梅の匂にぞ、いにしへのことも恋しう思ひいでらるる。

イ 下二段動詞の一部

ロ 自発の助動詞の一部

ハ 受身の助動詞の一部

ニ 可能の助動詞

ホ 完了の助動詞

〈A〉 1 賭博をして親兄弟にもいやがられた。

2 大納言であった人が、世間話などをしなされた。

3 一晩でもあなたと寝ないときは、(笛のように)さまさまの音を出して泣かずにいられない(ことです)。

4 恋しいことががまんしにくく、湯水も飲むことができない。

〈B〉 1 妻がせきたてたので、困りきって、妻のいうとおりにしてしまおうという気になった。

2 道を知っている人もいなくて、道の分からないままに行った。

3 (家の人に) 来意を告げるけれど何の役にも立たない。

4 涙がこぼれるので、目も見えず、何も言うことができない。

5 梅の花の香によって、昔のこともつい恋しく思い出される。

〈A〉 1 ハ 2 ニ 3 イ 4 ロ 5 ホ
 〈B〉 1 ハ 2 ホ 3 イ 4 ニ 5 ロ

(4) 無生物主語 十る・らる ↓ 受身 は少ない。

○ 廂ひさしに敷かれたりし物ははさながらありや。(尊敬)

(廂ノ間ニオ敷キニナツテイタモノハソノママアルカ)

(5) 「仰せ」+らる ↓ 尊敬

○ 殿は仰せられつることやありつる。(言イナサツタコト)

(6) 「れ給ふ・られ給ふ」 ↓ 絶対(尊敬)ではない。

○ 交野かたのの少将には笑はれ給ひけむかし。(受身)